



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

1. 莢に茶しみ症が出ない枝豆用黒大豆新品種「岡山SYB1号」の育成

[要約]

「岡山系統1号」より枝豆収穫期が11日早く、枝豆収量及び遊離糖含量が高い、莢に茶しみ症が出ない枝豆用黒大豆新品種「岡山SYB1号」を育成した。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先] 電話086-955-0275

[分類] 技術

[背景・ねらい]

岡山県で栽培されている黒大豆「岡山系統1号」は枝豆収穫時期が遅く、黒大豆枝豆としての収穫・出荷期間の拡大のために早生化が望まれている。また、著しい品質低下の要因となる莢の茶しみ症の原因である、ダイズモザイクウイルス（SMV）に対する抵抗性の導入が望まれている。そこで、早期に収穫が可能でSMV抵抗性を有する、黒大豆新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 本品種は、2009年に「岡山系統1号」を母、SMV抵抗性を有する「玉大黒」を父として交配し、単粒系統法によって育成した品種である。
2. 「岡山系統1号」と比べ、開花始期は6日、枝豆収穫期は11日早い（表1）。
3. 主茎長は「岡山系統1号」より短く倒伏しにくい（表1）。
4. 枝豆収量（莢厚9mm以上）は「岡山系統1号」より多い（表1）。
5. 遊離糖含量は「岡山系統1号」より高く、食味が優れる（表1）。
6. 種皮の色及びへその色は「黒」、花色は「白」、毛茸の色は「褐」である（表1）。
7. 無被覆栽培においても、莢の茶しみ症の発症はみられず、外観品質が優れることから（表1、図1）、低コスト省力栽培が可能と考えられる。

[成果の活用面・留意点]

1. 本品種は枝豆専用である。
2. 適応地帯は、県下全域である。
3. 収量及び茶しみ症の発症程度は地域によって異なると予想されるため、導入にあたっては現地試験を実施する。
4. 本品種は「岡山SYB1号」として品種登録（2021年8月5日）された。「追記2021年8月」



[具体的データ]

表 1 「岡山 S Y B 1 号」の特性一覧

品種系統名	岡山 S Y B 1 号	岡山系統 1 号
花色	白	紫
毛茸の色	褐	褐
種皮の色	黒	黒
へその色	黒	黒
主茎長 (cm)	60	68
主茎節数 (節/株)	15.2	18.9
開花始期	8月4日	8月10日
枝豆収穫期 ²	10月7日	10月18日
倒伏程度 (0:無-4:全)	1.5	3.5
枝豆収量(莢厚9mm以上) (kg/10a)	1,147	828
百粒重 (g)	58.6	76.6
莢長 (mm)	60.5	62.9
莢幅 (mm)	15.0	16.5
莢厚 (mm)	11.0	12.8
遊離糖含量(g/100gFW) ³	4.65	3.66
アミノ態窒素含量(mg/100gFW) ⁴	31.6	81.8
ダイズモザイク病の発症程度 ⁵	無	極微
莢の茶しみ症の有無 ⁶	無	有
食味評価 ⁷	3.11	2.92

注) 調査地：岡山県農林水産総合センター農業研究所

調査年次：2016～2017年

播種期：6月24日（2016年）、6月15日（2017年）

条間 1 m、株間50cmの直播栽培で、アブラムシ類の飛来防止のための被覆は行っていない。

² 枝豆収穫期は、全莢のうち概ね80%以上が莢厚9mm以上になった時期で、この時期以降約10日間が枝豆としての収穫適期。

³ 遊離糖測定：高速液体クロマトグラフィーにより分析。遊離糖含量は果糖、ブドウ糖、ショ糖及び麦芽糖の合計。（2017年のみのデータ）

⁴ アミノ態窒素測定：L-グルタミン酸を標準として、ニンヒドリン比色法で分析。（2017年のみのデータ）

⁵ ダイズモザイク病の発症程度、茶しみ症は遠視調査。

⁷ 食味評価は普段食べている黒大豆枝豆と比較した総合評価で、1 悪い、2 やや悪い、3 同等、4 やや良い、5 良いの5段階評価の平均値。数値が大きいほうが評価が高い。



「岡山 S Y B 1 号 (仮称)」

「岡山系統 1 号」

図 1 茶しみ症の発症程度

[その他]

研究課題名：枝豆の優良系統の選抜と優良種子の安定生産

予算区分：県単

研究期間：2014～2018年度

研究担当者：妹尾知憲、大久保和男、田村尚之、森本泰史

関連情報等：[平成28年度試験研究主要成果、45-46](#)

[平成28年度試験研究主要成果、47-48](#)